

インターバンクの声（2016年1月28日）

市場が注目していた米連邦公開市場委員会（FOMC）が終わり、政策金利の維持と利上げの見送りが決定され、世界経済や市場動向を注視していく姿勢を表明した。発表直後の市場は、ドル円が発表前の118円台後半から119円台に乗せる反応を見せたが、すぐに118円台の中盤に反落するなど、声明の内容に対する評価が一定でないことを表していたようだ。声明は、経済成長が昨年末にかけて減速したものの、労働市場が一層改善したことを示唆した。家計支出や企業の設備投資が緩やかに増加していることや、住宅分野の改善も示した。インフレ率は委員会の中長期目標である2%を下回る水準が続いているが、エネルギー価格と輸入価格の下落による一時的な影響がなくなれば、中長期的に2%に上昇すると、黒田日銀総裁が繰り返している発言と似たような見通しを示している。年内の金利引き上げ予想回数が減少するような示唆はなかったが、しばらくはFF金利が中長期的に有効となる水準を下回る可能性が高いと予想している。市場が声明をややハト派寄りを受け止めたのは、この辺りが原因だったかも知れない。これで明日の日銀金融政策決定会合の結果へ注目度がより高まった。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。